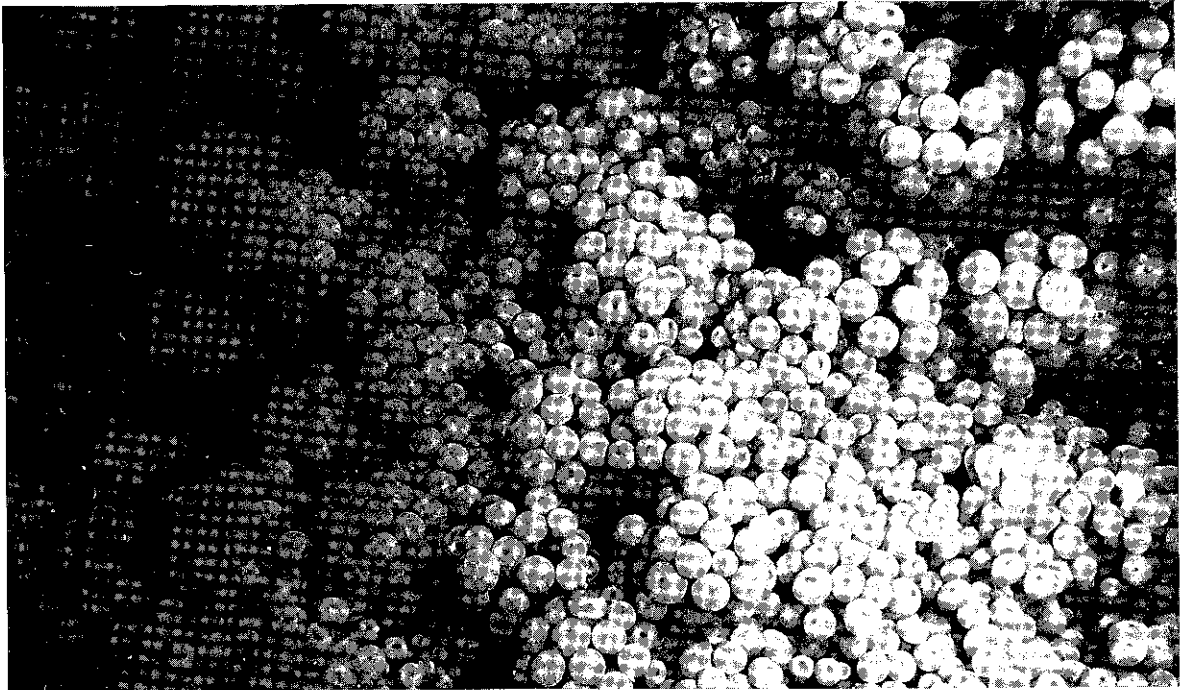


串本海中公園 マリンパビリオン

2005. 11

Vol. 34, No. 6



スリコギヅタ

Caulerpa racemosa var. laete-virens

体は海底を這う円柱状の匍匐茎と立ち上がる直立枝と呼ばれる枝部分からなり、表面は平滑である。匍匐茎からは細い根が伸び海底の小石や岩などに付着する。直立枝は枝の上に倒卵形あるいは棍棒形の小枝が2列あるいは数列縦に密集して並び、全体として細長いスリコギの様な形になる。小枝の先は丸いものや先端が平たくなるものなど様々である。周囲の環境特に光条件により体の形が著しく変化する事が知られており、種内分類群としてセンナリヅタ、ヒラエヅタ、エツキヅタ等が知られている。外見がよく似た別種フサイワヅタとは小枝の付け根がくびれない事で区別される。色は鮮緑色、質は多肉質で弾力がある。体の高さは5 cm程度であるが、時にもっと大きくなる。水深5～10 m程度の岩礁や転石上に生育し、当館では水槽内にも自然発生する。太平洋沿岸南部から九州・南西諸島・インド洋に広く分布する。写真は串本海中公園地先水深5 mの海底で撮影したもの。イワヅタ目。

S.U.

串本海中公園センター

串本海域サンゴ群集がラムサール条約湿地に認定される

内田 紘臣

イランのカスピ海湖畔の町ラムサールで 1971 年に「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された。これが通称「ラムサール条約」と呼ばれるもので、その第 1 回条約会議はイタリアのサルディニア島で 1980 年に行われ、この第 1 回会議で日本は条約湿地として釧路湿原を候補地にこの条約に加盟した。第 2 回会議はオランダで 1984 年に行われたが、その後は 3 年に 1 度のペースを守って、今年が第 9 回会議に当たる年である。

これまでの 8 回の締約国会議で、条約の整備と、条約の及ぶ範囲の拡大が図られ、世界 150 ヶ国が加盟する条約となり、条約の及ぶ範囲も、水鳥が利用可能な湿地のみならず、世界中のあらゆる浅水域の保全が対象となっている。

わが国にはこれまで 13 箇所のラムサール条約湿地があった。この度、わが国ではさらに 20 箇所の候補地を今回の会議に申請したのであるが、これが認められればわが国の条約湿地は 33 箇所となる。これらの申請された湿地がラムサール条約会議の審査を通り、条約湿地として承認されれば、11 月 10 日午後、わが国の認定湿地についての認定書の授与セレモニーが予定されていた。

串本の認定湿地については、環境省自然保護局の委託を受けて、2003 ～ 2004 年に串本海中公園センターが行った串本海中公園資質調査の結果をふまえ、次の 3 箇所とされた。従来の海中公園地区のある鯖浦海域を含む名近崎～砥崎・潮岬西岸一帯・大島西岸にある通夜島北岸。ラムサール条約湿地としての名称は串本サンゴ群集 Kushimoto Coral Communities である。

串本町ではこの機会に当町の代表を送り込み、認定書の授与を現地で受けるべく計画し、筆者が町教育委員長という立場で、また観光課の職員の高橋さんが記録係として同行し、2 人での参加となった。参加は日本政府のオブザーバーとしてであり、政府間会議への出席や、

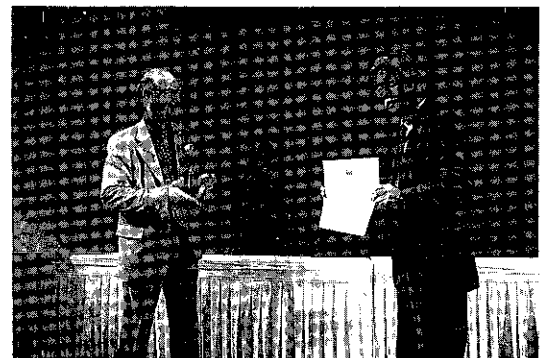
その他の会議での発言はできない立場である。

第 9 回締約国会議は 11 月 8 日～ 15 日、アフリカ、ウガンダの首都カンパラで行われた。8 日の開会式に出席し、そのあと 10 日の認定書の授与式に参加した。授与式はラムサール事務局長のブリッジウォーター氏が串本町も含め、出席 6 団体に認定書の授与を行った。事務局長は挨拶で日本の条約湿地拡大の努力を高く評価されると同時に、新しく認定された湿地が非常にバラエティーに富む点も評価された。そのあと、「ラムサール条約登録湿地を増やす議員の会」の参議院議員黒岩宇洋氏の挨拶につづき、環境省の名執野生生物課長が新たな 20 箇所の紹介をし、出席の 6 箇所の公共団体から、指定湿地のプレゼンテーションがあった。その後、参加各種団体による挨拶があり、日本（環境省）主催の認定書授与式は終了した。

2008 年の第 10 回会議は韓国で開催される。そのためアジアでは韓国からの参加者が多く、よく目に付いた。

我々 2 名は会議の終了を待たずに、さらにはそのあとのエキスカージョンにも参加せずに、11 日午前会場をあとに帰路に就いた。

今回お世話になった環境省、串本町、ウガンダ日本大使館、日本国際湿地連合の方々に謝意を表します。



認定書授与式での筆者。

授与するのはブリッジウォーター事務局長

ラムサール条約登録記念 特別展
「串本・世界最北の大サンゴ群生地」
 の紹介 野村 恵一

去る 11 月 8 日に、串本町沿岸のサンゴ群生地が、世界的に重要な水辺の生態系保全を目的とした国際条約であるラムサール条約の登録地に認定された。この機会に、串本海中公園センターでは、ラムサール条約と素晴らしい串本のサンゴ群集をPRする特別展を企画し、11月23日より開催したので、これについて紹介したい。

「展示の概要」

文末に開催要領を示した。会期は 1 年間、会場は水族館内の特別展示場であるが、これまで隣接して展示されていた魚類液浸標本やウミガメ剥製標本を撤去し、特別展用のスペースを大幅に拡張 (270 m²) した。この展示規模は、当館の特別展としては過去最大のものとなった。

展示は、ラムサール条約と串本のサンゴ群集を解説したパネルが主体であるが、串本を代表するクシハダミドリイシやオオナガレハナサンゴなど約 20 種のサンゴの生体ならびに骨格標本を各所に配置したり、実験コーナーやサンゴ Q & A コーナーを設け、お客様の理解を深め、また、楽しんでもらえるように工夫を凝らした。

さらに会場の中では、写真家・古見きゆう氏に水中写真展「串本の海のたからもの」を同時開催していただいた。古見氏は、串本海中公園センターのダイビングガイドとして長らく勤務され、2002 年にプロカメラマンとして独立し、現在、新進気鋭の写真家として活躍しておられる。本個展は古見氏の錦を飾る里帰りでもある。

「15の展示ブロック」

特別展は 15 の展示ブロックで構成されている (図 1)。以下に各ブロック別の内容を説明する。

①ラムサール条約とは？

ラムサール条約の目的や、ウガンダで行われた先の国際会議の様態をパネルや写真で解説。

②串本のサンゴ群集

串本のサンゴ群集の特徴をパネルと写真で紹介。また、国内では非常に希少なオオナガレハナサンゴの生体を展示。

③実験コーナー「サンゴの成長」

水槽内にサンゴを飼育し、1 年間の開催期間中にどれだけサンゴが成長するかを表示。また、種別の成長の違いをパネル紹介。

④串本の代表サンゴの生体展示 (1)

水量 2 トンの八角形水槽と、上方から眺められる高さ 0.5m・直径 1.5m の俯瞰水槽の 2 つの水槽で代表的な串本のサンゴの生体を展示。特に俯瞰水槽には串本の浅海域における最重要種で、串本の顔とも言えるクシハダミドリイシを並べ、身近に観察できるようにしてある。

⑤串本のサンゴ骨格標本

生体と骨格とが比較できるように、生体を展示してある種について、ここに骨格標本を展示。

⑥サンゴの天敵「オニヒトデ」とその仲間たち

ドーム型をした 4 水槽からなり、サンゴ食のオニヒトデとマンジュウヒトデ、オニヒトデに近縁で希少種であるアカオニヒトデ、大型のオオアカヒトデなどを展示。

⑦サンゴとは

サンゴの体の仕組み、生態的特性について、パネルや精密な立体モデルを用いて解説。

⑧サンゴの生態と保全、サンゴ礁

サンゴの繁殖と成長、保全活動についてパネルで解説。また、沖縄県八重山諸島黒島の黒島

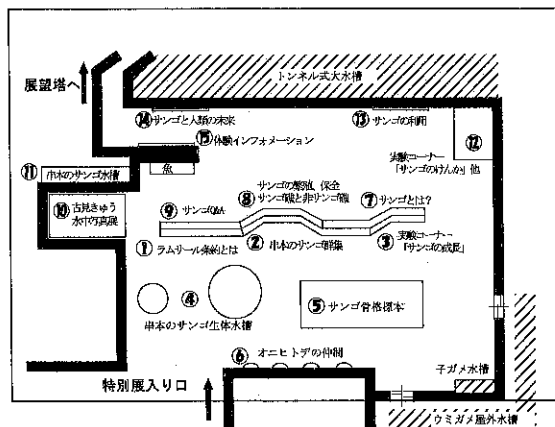


図 1. 特別展の展示配置

研究所から借用したサンゴコア（島を形成するサンゴ礁地層を掘り抜いたもの）や海底地形ジオラマを用いて、サンゴ礁と非サンゴ礁の海の地形の違いを解説。

⑨サンゴQ & A

サンゴに病気はあるの？、サンゴは食べれるの？、世界で一番大きなサンゴは？など、サンゴに関する素朴な疑問に答えるコーナー。

⑩古見きゅう氏の水中写真展

⑪串本の代表サンゴの生体展示 (2)

小型水槽群を用いて、串本を代表するサンゴ約15種の生体を展示。

⑫実験コーナー「サンゴのけんか、食事」他

サンゴは動きまわらない動物であるが、実は空間をめぐる生死を分けた激しいバトルを展開している。そんなけんかの一端を水槽内で実験的に再現。また、サンゴの食事風景が見られる、餌付け実験も実施。

⑬サンゴの利用

サンゴは人にどのように利用されているか、パネルと商品で紹介。

⑭サンゴと人類の将来

サンゴと人類に未来はあるのか、本特別展の締めくくりをパネルで解説。

⑮海中公園センターの体験インフォメーション

当センターが行っている体験イベント（水族館飼育体験、磯観察体験、スノーケリング体験、体験ダイビング、クジラ&イルカウォッチング、トビウオ救い取り）を紹介。



図2. 展示風景（俯瞰水槽から骨格標本を望む）

「サンゴについて盛りだくさん」

串本海中公園センターは、開設以来、主に串本と沖縄においてサンゴに関わる調査や研究を展開してきた。今回の特別展は、長年集積されたこれまでの成果を披露する場となった。従って、本特別展は上述したように、サンゴについて盛りだくさんの内容となっている。サンゴ、特に串本のサンゴについて興味のある人はぜひ一度ご観覧いただきたい。

最後に本特別展を開催するに当たりご協力・ご後援をいただいた諸氏、諸機関の皆様に御礼申し上げる。

ラムサール条約登録記念特別展 「串本・世界最北の大サンゴ群生地」 開催要領

場所：串本海中公園センター水族館特別展示場

期間：2005年11月23日～2006年11月23日

展示内容：ラムサール条約と串本のサンゴ群集について、2点の立体モデル、約30点の解説パネル、約100点の写真、約20種30群体のサンゴの生体、約20種30群体のサンゴ標本を用いて紹介

同時開催（水族館特別展示場）：

古見 きゅう氏の水中写真展

「串本の海のたからもの」

主催：株式会社 串本海中公園センター

後援：串本町、串本町観光協会、串本町教育委員会、環境省近畿地方環境事務所、和歌山県、和歌山県教育委員会

協力：NPO法人日本ウミガメ協議会附属黒島研究所、赤木正和、平手康市、古見きゅう

同時開催体験プログラム

- ・体験シュノーケリング（シュノーケリングによるラムサール登録地の散策：夏期）
- ・体験ダイビング（スキューバダイビングによるラムサール登録地の散策：常時）
- ・ラムサール登録地の海岸部「サンゴロード」散策会（計画中）

POLYCHAETOLOGICA (38) 各科の属の検索と種の説明 (23)

チロリ科 No. 3

内田 紘臣

前回はチロリ科の第1属 *Glycera* のグループ1に属する種の検索表と、そのうちの3種を紹介した。今回はそのつづきで、グループ1に属する残りの種の説明と、グループ2の種の検索表を取り上げる。

***Glycera lancadivae* Schmarda, 1861**

(エラナシチロリ 内田, 1990)

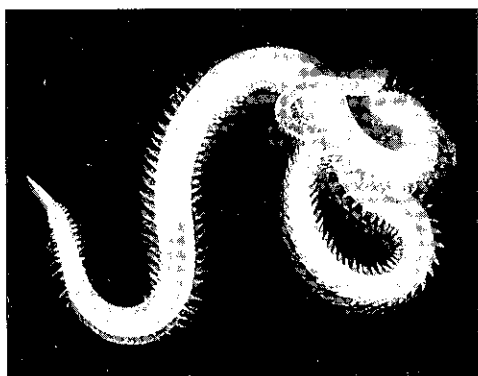
セイロン島東海岸の砂中から採集された、全長 50 mm、158 体節の標本をもとに記載された種である。種名は採集地の地名による。

疣足後足葉は上下2葉には分かれませんが、中央に浅いへこみがある(検索表の図参照)。この状態を2叉すると見ると、グループ2の種と見なせる。

これまでインド洋-西太平洋域から広く報告され、わが国では沖縄から記録がある。この分布域以外では、グアテマラから1度記録されたことがあるが、現在これは恐らく別種だと考えられている。

筆者の手元には八重山全域、沖縄本島海域、徳之島、および串本の、潮間帯~水深 8 m で採集された 60 個体以上の標本がある。

なお沖縄図鑑に掲載のカラー図は沖縄島羽地内海の個体であり、下に掲げた図1は八重山諸島黒島の潮間帯の個体である。

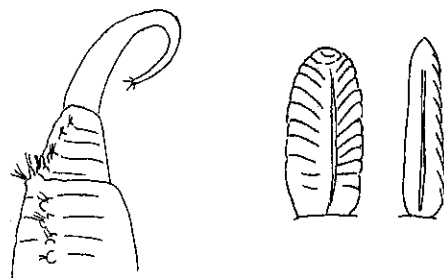
図1. *G. lancadivae* の生時の写真***Glycera oxycephala* Ehlers, 1887**

アメリカの Blake Expedition の採集物中に見つかった 118 節、全長 44 mm の 1 個体の標本をもとに記載された。記載当時、標本ビンに入っていたラベルの字が消えて判読不能であったため、西インド海域という以外、正確な模式産地は不明である。種名はシャープな頭の意で、本種の特徴的な細くて長い頭部からの命名である。

模式産地は西インド海域すなわち西大西洋であるが、まもなく南北アメリカ太平洋岸からも報告され、現在は大西洋岸はノースカロライナからパナマまで、太平洋岸はカリフォルニア州サンフランシスコ付近からメキシコまでの潮間帯~水深 800 m から知られる。

前回の検索表にもあるような非常に特徴的な前口葉(下図参照)と、これも特徴的な口吻上の扁平で非常に弱くかつ水平に近いリングを持つ乳頭状突起(下図参照)、しかも突起はこの1種類のみという特徴によって、新大陸の東西両側のものは同一種ということになっている。

本種の体節は2分節する。筆者の手元には、本種に非常に酷似し、上記の前口葉の形態と乳頭状突起の特徴を持った標本がある。ところが、その中には、体節が2分節するものと、3分節するものがあり、それぞれ乳頭状突起はよく似るものの、わずかにその外形が異なる。このようなことから、*G. oxycephala* とされるものは互いによく似た種群をなすと思われる。



(正面) (側面)

図2. *G. oxycephala* の前口葉と口吻突起

筆者の手元にある標本の内、上に挙げた東西アメリカ大陸産と同じく体節が2分節するものは、いずれも串本でのドレッジ、水深 36-70 m からの3個体で、体節が3分節するものは白浜町白良浜、水深 3 m の砂底からの2個体である。

Glycera sp. NANK.

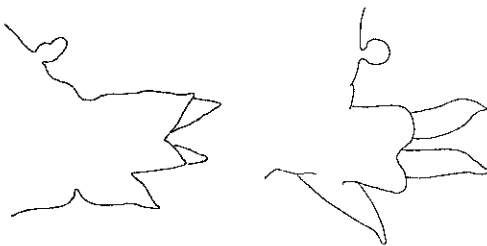
これまで挙げた第1グループの種の内、エラナシチロリ *G. lancadivae* 以外の種は開放性の砂底から採集されている。またエラナシチロリも同様な開放性海域の砂底からも採集されているが、それに加えて、内湾性の高知県大方町の河口干潟や、西表島古見の河口干潟、それに沖縄本島の羽地内海などといった泥～砂泥干潟からも採集されている。

本種は和歌山県太地町森浦湾、水深 12 m の泥底から採集された1個体の標本である。検索表にも掲げたように、非常に特異な形状の疣足を持ち、これまでの所、このような疣足を持つ種は知られていない。なお口吻の長突起は4本ほどのリングをもつ。

グループ2 疣足の後足葉は2又する。鰓をもたない

種の検索

1. 疣足後足葉は前足葉よりやや短い. 2
1. 疣足後足葉は前足葉よりはるかに短い.
ツバをもつ突起はない 3

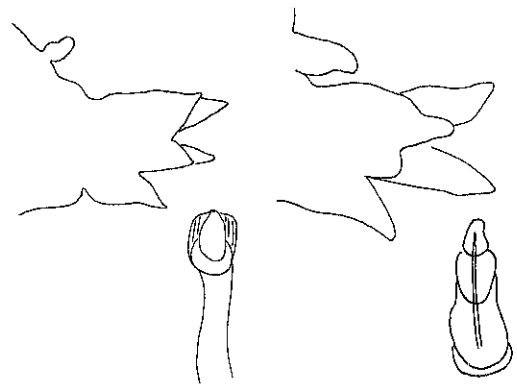


2. 疣足後足葉は背腹両足葉とも尖る。長突起は先端部にツバをもつ

G. onomichiensis

2. 疣足後足葉は背足葉は尖るが、腹足葉は先が丸い。長突起はリングを持つが、ツバは持たない

G. decipiens



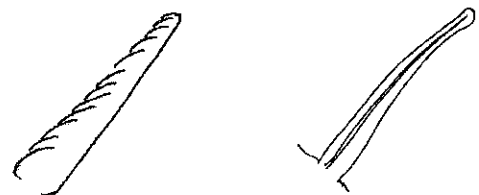
3. 長突起はリングを持つ

G. lancadivae

(疣足後足葉中央の小さな切れ込みを単なる切れ込みと見ると、後足葉は2又していないので、グループ1になり、切れ込みで2分していると見ると、このグループに入る：種の説明はグループ1を見よ)

3. 突起はリングを欠く

4

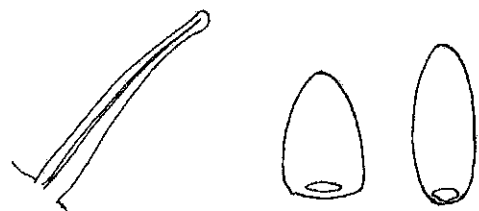


4. 長突起は非常に細長い

G. tessellata

4. 長突起はずんぐりして短い

G. sp. NANS.

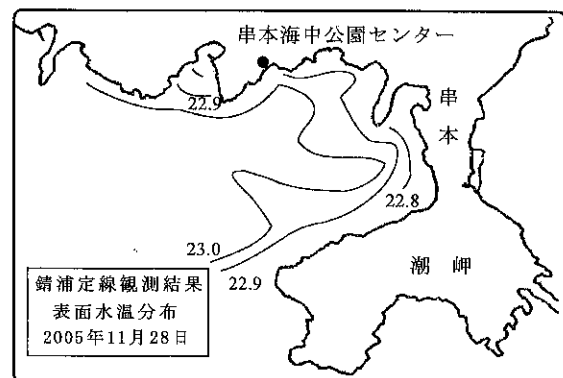
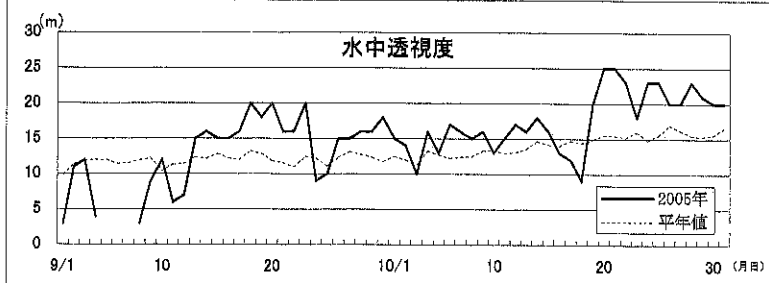
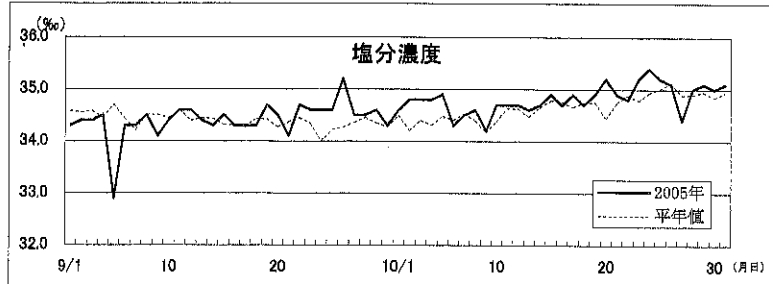
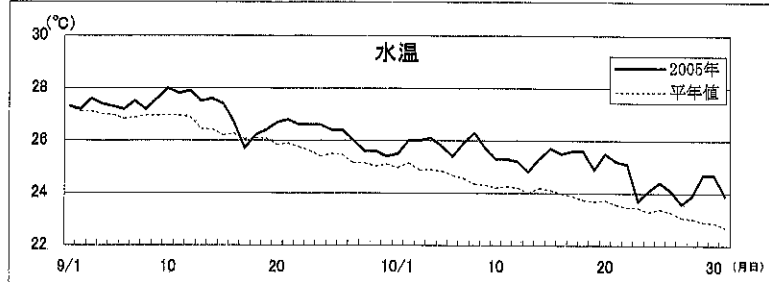
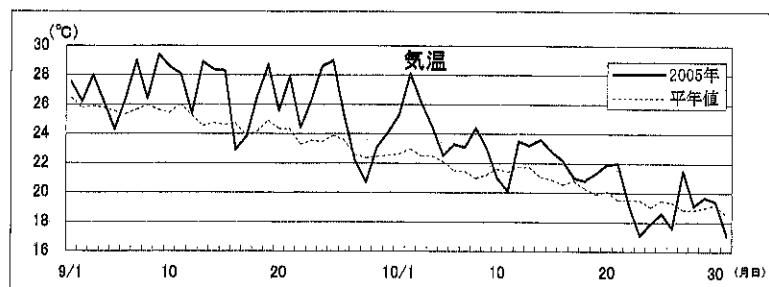


総目次

Vol. 34, No. 1	鯖浦の海から	宇井 晋介 … 24
表紙 ヘライワツタ … 1		
POLYCHAETOLOGICA (33)	Vol. 34, No. 4	
各科の属の検索と種の説明 (18)	表紙 フイリグサ … 25	
内田 紘臣 … 2	定置網で漁獲された魚類について (10)	
2004 年鯖浦定置観測結果 小寺 昌彦 … 4	2005 年の結果 御前 洋 … 26	
特別展	ナガウニとツマジロモンガラ的大量斃死	
「もう一つの熊野古道大辺路をゆく」を開催	野村 恵一 … 28	
宇井 晋介 … 6	POLYCHAETOLOGICA (36)	
Vol.33 総目次 … 7	各科の属の検索と種の説明 (21)	
メールアドレスの変更について … 7	内田 紘臣 … 30	
鯖浦の海から 宇井 晋介 … 8	鯖浦の海から 宇井 晋介 … 32	
Vol. 34, No. 2	Vol. 34, No. 5	
表紙 キントキ … 9	表紙 フサカニノテ … 33	
海中展望塔に集まる魚 (28)	海中展望塔に集まるヨコエビ 森 美枝 … 34	
福田 照雄・小寺 昌彦 … 10	第 32 回マリンスクール開催 … 35	
POLYCHAETOLOGICA (34)	POLYCHAETOLOGICA (37)	
各科の属の検索と種の説明 (19)	各科の属の検索と種の説明 (22)	
内田 紘臣 … 12	内田 紘臣 … 36	
特別展	「教員の長期社会体験研修」を通して	
「もう一つの熊野古道大辺路を行く」より	新宮市立蓬莱小学校 雑賀 聖哉 … 38	
大辺路の民話「鯨のお礼」夜話	実習生思考 … 39	
宇井 晋介 … 14	鯖浦の海から 宇井 晋介 … 40	
フサヘリイソギンチャク串本に産する		
内田 紘臣 … 15	Vol. 34, No. 6	
初再捕された当館産アオウミガメ	表紙 スズカケツタ … 41	
宮脇 逸朗 … 15	串本海域サンゴ群集が	
鯖浦の海から 宇井 晋介 … 16	ラムサール条約湿地に認定される	
	内田 紘臣 … 42	
Vol. 34, No. 3	ラムサール条約登録記念 特別展	
表紙 エツキツタ … 17	「串本・世界最北の大サンゴ群生地」の紹介	
イシサンゴの産卵について 2004 年の観察	野村 恵一 … 44	
御前 洋 … 18	POLYCHAETOLOGICA (38)	
鯖浦地先で採集された魚類 (3)	各科の属の検索と種の説明 (23)	
鯖浦産ハゼ科魚類 小寺 昌彦 … 20	内田 紘臣 … 45	
POLYCHAETOLOGICA (35)	Vol. 34 総目次 … 47	
各科の属の検索と種の説明 (20)	鯖浦の海から 宇井 晋介 … 48	
内田 紘臣 … 22		

鯖浦の海から
宇井 晋介

平均値	9月	気温26.3℃	水温26.8℃	塩分濃度34.4‰	水中透視度13.1m
	10月	気温21.5℃	水温25.1℃	塩分濃度34.8‰	水中透視度17.6m



串本沿岸海域がラムサール条約に登録された。登録に際しては、当館の過去の調査や研究成果が貴重な参考資料とされた。あるいは今回の登録は設立以来積み重ねられてきた当館の活動成果の集大成とも言える。

今後の当館の使命はラムサール条約の基本理念である「ワイズユース」をこの地に於いて具体化する事にある。広大な国土を持つ国と違って狭い国土しか持たない日本においては、「ワイズユース＝賢明な利用」の概念など無かったにせよの時代から人々は知らず知らずのうちにそれを実践してきた。自然を神として崇めると同時に、そこからもたらされる「幸」を節度を持っていた。そんな当たり前の習慣がいつの間にか物質文明の荒波の中で人々の心の中から忘れ去られ、その結果日本の海岸は削り取られ、埋め立てられ、失われた。この美しいサンゴ群落を有する海岸にも、そうした魔の手は着実に忍び寄る。交通不便な故に残されたこの貴重な海岸の価値を、世界中のより多くの人たちに知ってもらおう努力を続ける事が今後の当館に課せられた使命である。

マリンパビリオン Vol.34, No.6 通巻384号

年6回発行 一部100円
(年間購読料1,000円/送料含む)
発行日 平成17年11月30日

編集兼発行人

〒649-3514 和歌山県東牟婁郡串本町有田1157
(株) 串本海中公園センター
電話 & FAX 0735-62-4875
ホームページ <http://www.kushimoto.co.jp/>
印刷所 坂本印刷